



News Release

2024年4月23日
一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)

「JEMA-GX レポート 2023」を公開

一般社団法人 日本電機工業会は、持続可能な社会の実現に至るグリーン TRANSフォーメーション(GX)を必要とする社会構造の大きな転換期において、電機産業の足下の状況を把握しつつ、果たすべき役割と貢献し得る機会を探り、社会に対して広く発信していくことが重要であるとの認識の下、長期的なゴールであるカーボンニュートラルへの重要なマイルストーンである2030年に向けて、電機業界の環境対応、特に脱炭素に向けての取組みを継続的にレビューし、企業努力を対外的にも説明していくため、今般「JEMA-GX レポート 2023」を制作、公開しましたのでご案内します。

1. 調査項目の概要と分析方法

以下①～③の項目(KPI)について、当会会員の対象企業に調査を実施しました。

脱炭素経営について、2023年度時点での状況を示すほか、GHG排出量・エネルギー消費量・電化・再エネ化の状況については、3年分のデータを基に経年変化を調査し、増減状況および売上高の推移と照らし合わせたデカップリングの動向を分析しています。

- ①脱炭素経営:目標設定やイニシアティブへの参加状況等(2023年度調査時点)
- ②GHG排出:Scope1,2,3の算定状況、実績、削減率(2020年度～2022年度データ)
- ③エネルギー消費量・電化:燃料／電力の算定状況、実績、削減率及び、電化率、電力の再エネ化の状況(2020年度～2022年度データ)

2. 調査対象企業と市場規模

- ・JEMA会員企業のうち、85社(連結グループベースでは64社)。
- ・調査対象企業の2022年度売上高は69.7兆円(開示企業の合計値)と、2021年度比で13.6%増加。

3. 調査結果概要(トピック) * 以下はグローバル連結ベース

■GHG排出量と内訳(Scope1,2)(2022年度)

- ・Scope1+2排出量合計は1,921万t-CO2e(Scope1,2を開示している会員企業の排出量合計)と、2021年度比で17.4%減少。そのうち72%はScope2であり、Scope1のCO2も含めるとCO2の排出が全体の93%を占める。

■Scope1,2の売上高 GHG排出原単位(2020年度/2022年度推移を1年間平均で算出)

- ・回答企業平均で14.3%改善。コロナ禍後の大幅な売上回復という側面はあるが、デカップリング基調の企業が26社ある。

■エネルギー消費量の状況(2022 年度)

- ・総エネルギー消費量は 56,730GWh、うち燃料消費量 22,133GWh、電力消費量 34,596GWh と、電力消費量がエネルギー消費量全体に占める割合は 61%。
- ・電力消費量に占める再エネ由来電力量と割合は 5,475GWh、15.8%と、2020 年度の 1,234GWh から約 4 倍に増大。

■GHG 削減目標の設定状況

- ・中期目標を設定している企業は 77%、うち約半数がカーボンニュートラルもしくは 1.5 度目標。
- ・長期目標を設定している企業は 63%、全てカーボンニュートラル目標。

■関連情報の開示状況

- ・TCFD 枠組みに沿った開示対応をしている企業は 66%。
- ・環境投資額の開示を行っている企業は 47%。
- ・削減貢献量の開示を行っている企業は 22%。

詳細はエグゼクティブサマリー、レポート本編をご参照ください。

→[JEMA GX レポート 2023 掲載サイトへ](#)

〈JEMA-GX レポート 2023 本編目次〉

- I. 目的・調査概要
 - II. 目標・取組み計画(方向性)
 - III. 電機産業における脱炭素経営の取組
 - IV. JEMA ロードマップ達成に向けた温室効果ガス(GHG)排出削減の取組／進捗状況
 - V. 取組事例
 - VI. 評価(まとめ)
- Appendix

3. レポート報告会開催

レポート公開を記念し、企業、メディアの方を対象としてレポート報告会並びにパネルディスカッションを開催します。

■「JEMA-GX レポート 2023 報告会～電機業界の GX における道筋とデカップリング」

日時 2024 年 5 月 17 日(金)13:00～15:00

→[JEMA-GX レポート 2023 報告会 開催案内サイトへ](#)

以 上

本資料に関する弊会問合せ先

環境ビジネス部

TEL:03-3556-5883

Email:env_public *jema-net.or.jp

*を@に変えて送信ください